



## ミネラルウォーターはどこから出てくるの

### 地下水や鉱泉水の水などをくんでいる

いろいろなミネラル(無機質)や、炭酸ガスなどをたくさんふくんだ水を、ミネラルウォーターといいます。鉱泉水という、いい方もあります。

ミネラルウォーターは、飲むのに適した地下水や、鉱泉水などの天然水をくみあげたもので、これを、びんづめやかんづめにして、利用してきました。ナトリウム・カリウム・マグネシウム・カルシウムなどのミネラルや、炭酸ガスなどをたくさんふくんでおり、独特のうま味があります。

ヨーロッパでは水質が悪く、生水が飲めないので、ミネラルウォーターが広く飲まれてきました。そのため、ヨーロッパのレストランやホテルで水を注文すると、ミネラルウォーターが出てきます。フランスでは、エビアン、ビテル、ビシーという名前のミネラルウォーターが有名で、輸出もされています。

最近では、日本でも、ミネラルウォーターが飲まれるようになりました。水道の水がカルキくさかったり、鉄さびのにおいがしたりして、まずくなったため、飲み水はミネラルウォーターにした人が多いようです。富士山や六甲山の水などが、スーパーで売られています。

### 日本のミネラルウォーター

日本のミネラルウォーターは、原水をちんでん、ろか、加熱殺菌などの処理をし、ペットボトルなどの容器に入れたものが多く見られます。中には、ミネラルを入れたり、炭酸ガスをとかして入れたりしたものもあります。ミネラルウォーターは、日本では、食品衛生法の清涼飲料水の基準が適用されています。(監修・青木 国夫)

